

南部地区人権教育実践報告会

令和5年7月28日（金） 会場：響の森桶川市民ホール・さいたま文学館
（総参加者数398人）

1 全体会の概要

- (1) 開会の言葉
(2) あいさつ

実行委員
埼玉県教育委員会副教育長
実行委員長
桶川市長
埼玉県議会文教委員会委員長



(3) 人権作文・表彰

- ・「おじいちゃんのおしゃべり」 上尾市立大石小学校 2年生
- ・「わたしのしるし」 草加市立八幡北小学校 3年生
- ・「たった一言で」 草加市立高砂小学校 4年生
- ・「差別のない世界へ」 北本市立中丸東小学校 5年生
- ・「イメージで比べない、考えない世の中とは」 和光市立新倉小学校 6年生
- ・「こうあるべきとは誰が決めた？」 草加市立川柳中学校 1年生
- ・「人権が守られる未来に向けて」 桶川市立加納中学校 2年生
- ・「名無しの暴力への逆襲」 上尾市立上尾中学校 3年生
- ・「発達障害と私達」 県立新座総合技術高等学校 3年生

(4) 閉会の言葉

実行委員

2 分科会の概要

分科会名	実践報告
同和問題	○ともに育ち合う保育～みんなと一緒に伸びていく～ ○人との関わりを大切にしたい人権教育の充実
子供	○蕨市における人権教育の取組 互いを認めあう心の育成 -お互いを知り、地域のつながりを深める！- ○子どもたち一人一人の育ちを支える保育実践を目指して ○「一人一人を大切にする学校づくり宣言」を踏まえた取組 ～子どもの人権に配慮した実践をめざして～
高齢者	○生徒の未来につなげる人権教育 ～総合学科の福祉系の取組～ ○高齢者との相互理解の先に… ～子どもたちと地域を結ぶ取組～
障害のある人	○「心のバリアフリー」に向けた交流を通じた人権教育 ○児童発達支援センターでの取組と、子どもを中心にした連携について ○「共育ち」～みんなの中で育ちあう保育～
女性・様々な人権課題	○桶川市の社会教育における人権教育 ○日本の女性の生きづらさ ～埼玉県立桶川西高等学校の取組～
外国人	○言葉は通じなくても心は通じ合える～園児・保護者との関わりを通して学んだこと～ ○国際理解や多文化理解と、それらを尊重しようとする態度の育成

3 参加者の意見など

- (1) 子供たちの人権作文の発表は、率直な思いが聞けて勉強になりました。分科会の報告も保育園や特別支援学校など、校種が異なる実践で大変参考になりました。
- (2) 人権課題には様々なものがあるが、人権について身近に感じ、人権課題に対して考え、よりよいクラス・学校・社会につなげていきたいと感じました。
- (3) 指導者の先生のお話が、今日的な人権課題や生徒指導の面において、教育行政を交えながらとても分かりやすかったです。